



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 (03)3351-5038 アドレス dsstsw@jaswhs.or.jp



< 目次 >

1. 災害支援活動協力員募集と寄付金のお願い
2. 今後の会議・報告会の予定
3. 石巻・現地情報
4. 石巻・現地支援活動報告
5. 石巻・現地支援活動について

< 1. 災害支援活動協力員募集と寄付金のお願い >

支援活動協力員登録人数(8月10日(水)現在)

・現地支援活動協力員 : 154名

・事務所支援活動協力員 : 84名

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

[災害対策本部\(03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp\)](mailto:dsstsw@jaswhs.or.jp) 平日・土・祝 10~17時

メールでのご連絡の際は、件名に「(現地)または(事務所)災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。

現地支援活動について

宮城県石巻市の避難所「遊楽館」へ、1日4~5名を目標に派遣を行っています。

・車を運転出来る方が望ましいですが、複数で行動していますので、運転できない方もご相談くだされば、対応できます。

・引き継ぎ等の関係により、前後の移動日を含めず、中3日以上活動をお願いしたいと思います。できれば1週間来ていただければ、理想的です。

事務所支援活動について

活動日程 : 月~土、祝日 の 10時~17時 半日での参加も可能です

活動内容 : 主に現地支援活動協力員の派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理
1日4名を目標にご参加頂いております。

財政的に厳しい状況が続いているため、できるだけ事務所に来やすい方を希望します。事務所協力員に関しては交通費1200円上限と当面させていただきます。多数ご協力をお願いします。

寄付金の振込口座:郵便振込口座

資金が底をつきつつあります。皆様の更なる協力をお願い申し上げます。

口座名義 : 日本MSW協会災害支援金

口座番号 : 00100 - 1 - 89515

支店名 : 〇一九(ゼロイチキョウ)店(019)

口座種別 : 当座

他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別 : 当座預金 支店 : 〇一九(読み方:ぜろいちきゅう)店

口座番号 : 89515

備考 : お振り込みいただく金額に制限はございません。

ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

お振込手数料は、各自でご負担ください。

ご協力いただきました寄付の用途については、理事会(2011年3月27日開催)において当協会の行う東日本大震災 災害救援活動に使うことと決定いたしました。

< 2 . 今後の会議・報告会の予定 >

災害支援対策会議・報告会

日時 : 2011年8月29日(月)19時~21時

場所 : 日本医療社会福祉協会 会議室

申込み : 不要(直接会場へお越し下さい)

議事録をご希望の方は、災害対策メールでお申込みください。

5月まで行っていましたが、現地ボランティア活動報告会及び事務所ボランティアオリエンテーションですが、6月20日に合同で開催し、7月以降も合同で開催する運びとなりました。

< 3 . 石巻・現地情報 >

石巻での活動内容 内容は状況により変動します

- ・遊楽館利用者への相談支援
- ・遊楽館から退所した人へのフォローアップ
- ・域外の病院に入院している人への退院支援
- ・地域の保健医療福祉機関のニーズ把握と対応
- ・福祉関係職種との連携と協働
- ・退所サマリー、経過サマリー作成業務
- ・仮設住宅での支援活動

宿泊場所

5 月 23 日より、2LDK のマンションを宿泊場所として使用開始しました。

- * JR 東北新幹線 陸羽東線 古川駅より徒歩約9分
- * 駐車場 1 台(原則移動車 1 台以外は、遊楽館に駐車となります)
- * 布団はありますが、シーツ・枕カバー、タオルなどのご持参下さい。

マンションでの生活用品の寄附を募集中！

詳しくは災害対策本部までお問い合わせください。

現地移動車両

このたび中古車販売のガリバーインターナショナル社のご厚意により、当会へ半年間自動車を 1 台貸与していただくことになりました(保険や車検関係はガリバー社が負担してくださっています)。6 月 20 日に仙台泉店より引き取り、既に石巻に移送が完了しております。今後は現地ボランティアの皆様の足としてアパートと遊楽館との往復、支援活動にご利用いただけます。詳細とお願いは、次の通りです。

- ・車種 トヨタ「イスト」 ナンバー「野田 501ち 3967」 銀色
- ・利用される場合には、安全運転はもちろんですが、車の調子の確認、ガソリンの補給(給油したら協会に請求してください)、および鍵の管理をお願いします。
- ・駐車違反・盗難等に注意してください。

携帯電話

ソフトバンク様より、当協会へ 20 台の災害用電話の無料貸し出しをしていただきました。7 月 1 日より、現地および、協会本部はソフトバンクの携帯電話を利用しています。

< 4 . 石巻・現地支援活動報告 >

鶴田 光子 (聖テレジア病院)

期間: 8月3日~8月5日

「遊楽館」は山の上で周囲に何もなく、建物は驚くほど綺麗で、広々として、事務用品機器、空調なども整備され静かで非日常の世界でした。「暑さ」や「雑然」を覚悟していたので拍子抜けしました。避難所のスタッフ、他団体関係機関の方々とも3日間の印象ですが、よい関係が保たれ職場環境としては恵まれていたと思います。これは協会対策本部現地責任者の草水さん、今までの協力員の努力のおかげだと思います。

避難者の方の課題は重く、言い換えれば今は課題の重いほうが残っていると言えるでしょう。その意味でソーシャルワーカーがさらに必要な時期と感じました。時間的な制約の中で「いつかはここを出なければならぬ」「いつまでいられるのだろう」という不安と、他の方が次々と決っていくことへの焦りに寄り添いながら次の生活の場への支援を行なうことは、まさに保健医療機関のソーシャルワーカーの業務です。

ご一緒に活動した西谷さん(亀田総合病院)は、何回も活動されており、頼りになりました。活動した日はボランティア数が少なかったこともあり、毎日忙しく、短期間で多くの方と関わりました。災害関係の制度は大半の申請が終わっており、「仮設住宅」の比重が大きくなっていました。地路的なことを理由に入居を断られる方も少なくなく、疑問に思ったこともありましたが、地図を見たり、土地の様子を聞いてみると、車がないと買い物や通院など外出が出来ず、生活が成り立たないところが多いのです。便利な市街地に住んでいた方にとっては一層不安に感じることです。仮設住宅の建設条件からやむをえないことですが、「住まい」というのは単に「住居」ではなく、生活を支える環境が整ってこそ、住まいといえるのだと痛感しました。

「非日常的」である意味保護された環境から、新しい生活の場に移られる方々への環境の変化に対する支援が今後大きな課題になってくると思います。避難者の中でも自宅の修理など着々と生活の準備をされている方もある一方、被害的・攻撃的になったり、過剰に他の避難者の面倒をみたりなど、「問題」とみえる言動を示されている方もいます。きっと先の見えない不安、大きな喪失から必死に自分を守ろうとしているのでしょう。また障害を持ち、職場が被災し、収入が断たれながらも、自立への意欲を示され、夢を語る方の強さに頭がさがりました。

現地ボランティア前に調べたところ、石巻市は自然にも産業にも恵まれた美しい町だったようです。帰りにみた海近くの被災地は、まだ残る瓦礫の中に紙くず・ぼろきれのようになった家屋が並び、人影もなく、不気味な光景でした。震災前の美しい豊かな様子と震災時の恐ろしい光景の中を被災者の方々が生き抜いてこられたと思うと、一層胸を突かれる思いでした。そしてこれからの生活を考えると「人と環境」に介入するソーシャルワーカーがまさに必要です。「被災地」での支援という固有性は確かにありますが、基本は日常の業務と同じであり、あらためて自分のソーシャルワーカーとしての在り方を問い直す機会になりました。

< 5 . 石巻・現地支援活動について >

最終段階に入った遊楽館の支援活動

遊楽館で支援活動をして早、4カ月が経過しました。最近の一番の変化は、石巻市立病院の MSW の人事異動により、平成 23 年 7 月 1 日から遊楽館の相談部門には石巻市の職員がいなくなったということです。私たちとしては、遊楽館で行っていた支援活動を放り投げるわけにもいかず、一時途方にくれました。勿論、市役所の関係者も戸惑いを隠せませんでした。色々人事課と掛け合っていたようですが、結論としては、7 月 13 日から、石巻市は公益社団法人日本医療社会福祉協会へ遊楽館の退所支援業務を委託しました。協会は、MSW 一人を委託業務従事者として石巻市に派遣するという形で支援活動を継続することになりました。(詳細は協会からのご説明をご参照ください)

業務委託から 2 週間が経過しました。後方支援として行っていた災害支援でしたが、その意味は変質してきています。この部分だけは、主で動いているということです。委託業務従事者以外の協会員も同様の MSW 業務を行っています。石巻市との関係性は、専門性への尊重をいただいていると同時に組織上の位置付けは指示命令を受ける関係です。現在は、介護保険課が私たちの窓口になっています。さまざまな検討がなされなければならないという疑問が頭をよぎりますが、淡々粛々と業務は流れています。いずれ検証する必要はあると考えていますが、協会としては状況の中でベターな選択をしてきていると思います。このような未曾有の災害における福祉避難所の運営に関しては、誰も経験がなく、どうしていいのかわからないというところが正直なところなのだと思います。そして、組織図としても曖昧なまま、ボランティアベースで支えられている実態があり、災害から 5 カ月近く経過した現時点の分析評価はなかなか難しいと感じています。

また、石巻市の計画では、仮設住宅の建築が終了し、9 月末日には避難所を閉鎖する予定であり、福祉避難所であっても例外はないようです。しかし、市内全体の避難所を閉鎖できるかどうかの判断は、9 月末日の実態に基づいて下されるべきことです。市役所はその判断を迫られる立場ですが、その時に、ソーシャルワーカーとして、専門的見解を持ち、適切な発言をしていくことが重要だと考えます。いつまでに退所させるかではなく、どのように生活を立て直すのか、つまり、どう退所支援するのが問われています。遊楽館では、現在 35 名まで利用者が減少してきています。

仮設住宅への移行期には、さまざまな不安や課題が浮き彫りになり、心理的な不安定から体調を崩す人もいます。昨日まで一緒に避難所暮らしをしていた人が、ひとり、ふたりと避難所を去っていく。寂しさや焦りがでてくる時期です。

いつまでに退所するかではなく、どのように生活していくかに寄り添いながら、支援を続けていきたいと思います。利用者には沢山の力がありますが、私たちがその微弱電波を受け取る専門性を持っています。ストレングス視点や生活もですがそれを助けています。一步間違えると、退所できないでいる利用者は、スティグマを負わされることにもなりかねません。後々、支援活動拠点は、仮設住宅へ移行していきませんが、避難所に残っている利用者がある限り、彼らへの支援をしっかりとっていくことが重要だと考えます。現地においでになった MSW の方々には、人の力を引き出す支援技術を発揮していただければ幸いです。ケースワーク面接、グループワーク、テーマ別のセッション、退所サマリーの作成、カンファレンスの開催とファシリテートなどの援助を実施します。この段階の現地協力員さんには、今まで多くの医療ソーシャルワーカーがつないできたバトンを受け取っていただき、活動期間にできる現実的支援をお願いいたします。

8 月 3 日 現地から戻った責任者 草水より

日本医療社会福祉協会 災害対策本部